

平成12年5月(2000年) No. 413

淡路撮影会無事終了

5月6～7日の両日行われた淡路撮影会は、参加15名のもと初日はジャパンフローラ2000花博会場で自由撮影、好天に恵まれて思い思いのカットをたくさん撮影することができました。夜は兵庫県勤労福祉センター「津名ハイツ」に一泊、翌日はあいにく曇り空で時々小雨が降ったり晴れ間をのぞかせたり不安定な一日でしたが、五百羅漢や鬼瓦公園、いざさぎ神宮花さじき等の撮影スポットを3台のレンタカーを使って無事まわることができました。運転をしていただいた関、吉岡、藤原の3氏に厚く御礼申し上げます。なお、作品コンテストは7月例会日に行います。難しい組み合わせの撮影会作品、皆さんどのよううまくまとめられるか今から楽しみです。(合原)

15名の参加をみた万博公園ミニ撮影会

4月16日(日)作品研究会の一環として行われた万博公園でのミニ撮影会は、桜も散り際でしたが、数万本のポピーや菜の花、そして多数の鯉のぼりなど爽やかでゆったりした撮影会となりました。万博記念公園も万博から30年、今やすっかり樹木も大きくなり落ち着いた雰囲気です。

5月例会のお知らせ

5月例会は27日(第4土曜日)午後6時より、阿倍野市民学習センターにて開催します。多数のご参加お待ちしております。作品もどうぞ。

5月作品研究会のお知らせ

例会日の午後1時30分例会場にて開催します。メインテーマは「春」または「万博記念公園」ですが、その他の作品もどうぞ。勉強の場ですから、アドバイスを受けたいとか、意見を聞きたいとかいう未完成作品等お持ち下さい。

4月作品研究会レポート

4月研究会は合原会長を講師として「脚本・構成」の作成法について、講師作成のテキストと参考作品上映など、基本的な考え方の勉強会でした。15名の参加者があり、皆熱心に聞きっていました。引き続き参加者持参の作品3本を上映、1本1本丁寧な質疑応答や意見の交換が行われ有意義な研究会となりました。

■参考作品上 合原作品①ベランダ、②ツリーの最後、③ベトナムの女たち、■研究会作品上映 伊藤雅之（元OMC会員）：初秋を歩く5分、関剛：4月万博公園の花4分、森保信：万博公園の花5分（敬称略）

4月例会のレポート

4月例会は22日18時より開催。司会：合原さん、書記：関さん、デッキ係：奥さん、渡辺さん、受付兼照明係：安居良枝さんで進行しました。今月から新しく玉井 匂さんが入会されました。よろしくお願ひします。

■新入会者

玉井 匂（ひとし）氏：〒525-0034 草津市草津1-3-13

TEL 0775-62-0101

■出席者

石垣、合原、関、河合、江村、上総、今井、金子、吉岡、森口、安居夫妻、森下、増池、西村、渡辺、宮崎、森、那須、藤原、有村、華岡、松本、中尾、玉井の25氏

■上映作品（今月の記録と講評担当：関 剛世話役）

1. 雪の情景

河合源七郎さん

6分40秒

撮り貯めた5～6箇所の雪景色をひとつにされたと思います。それぞれの場所はあまり関連性のないところとお見受けしました。動くものすべてを閉じこめたような風景に交響曲や協奏曲のメンタルなBGMは、なにか重々しく減入るような感じがしてなりません。シーケンスごとにいきなり音楽が替わるのも聞いていて抵抗感があります。この作品でことさら曲を替える必要はないと思います。

ただ一ヶ所、人物にカメラを向けたシーンがありました。波が砕ける岩場で青海苔を掻きとる人。厳しい撮影環境にあることは想像できますが、もう少しこのあとを撮り続けられなかったかと惜しまれます。

2. 春の和歌山城

増池 茂さん

6分25秒

満開の桜に浮かれ出た人びとを城とからめて上手にまとめてありますが、ややアップの少ないのが残念です。例会の出品まで時間がなかったというお話で、選曲がなおざりになったのではないですか。縄文語とかいう難解な唄の入ったものが多い最近の姫神ですが、当然ながらこの映像に合っているとは思えません。

かつてテレビのシリーズ番組「神々の詩」で、タイトル後のカットバック映像とともに流れていたのも姫神の縄文語の唄です。初めは“へんな唄”と思っても、長期間おなじ映像におなじ曲を聞かされると、その番組の顔の一部としてあたりまえになってきます。映像と音楽はそういう不思議な協調関係も持っています。これは参考です。

3. 満開の桜

江村一郎さん

4分

さくら咲く川沿いを人々がゆったり行きかうのどかな風景。作者にしては珍しくロング主体の作品です。桜の枝ごしに、対岸を親子が乗った自転車走ります。カメラはそれを追って左にパン。すれ違いざま犬を連れた老人に向けてそのまま右にパン、つぎに現れた二人連れの女性にあわせて再び左にパン。その間カメラは回ったままです。普通なら反復するパンニングは見苦しいはずですが、ここでは何の違和感もありません。リプレイして見ると、速く、遅く、そしてゆっくりした三通りのパンニング、そのあとは視点を変えて数人の一団が右にフレームアウトする比較的長い固定ショットにつないでいました。作者がこれを計算ずくで組み立てたとしたら実に非凡な才能の持ち主と言えます。とにかく、この作品でまた新たな撮影テクニックを教えてもらった気がします。

4. 富士現象 森 保信さん 5分20秒
 前半は白系の滝、朝霧牧場、忍野の風景などに重点を置き、あまり強いイメージの富士山を見せていません。ラストちかくから裾野、左右の稜線、そして画面いっぱいの山頂と迫力ある映像が続くみごとな構成。最高の盛り上がりになりました。筆者も同行した一人ですから、この作品はいかに編集で苦勞したかがわかります。
5. 雪舟と宝福寺 安居良枝さん 5分40秒
 雨のなか、短い滞在時間でよくもまあこれだけ細部にわたって撮ったもの、と感心しました。雪舟を語る部分はともかくとして、最近は実景の撮り方が変わってきたようです。いままでのナレーション優先型のおおざっぱさ(失礼)が影をひそめ、対象を徹底的に観察できる『見るわざ』をそなえてこられたように思います。
 タイトルが終ってまもなく“あれっ”と気になった入口の掛け札の文字。巻き戻してよく見ると臨濟宗東福寺派と書かれ、なかでも「東福寺」の文字だけはっきり読みとれました。“ホーふくじ”と“トーふくじ”ではナレーションの聞こえかたも似ているうえ他のどこにも「宝福寺」の文字は出てこず、これはまぎらわしいカットです。むしろ無い方が余計な誤解を与えません。
6. 淡路花博 那須典彦さん 6分
 百花繚乱とはまさにこのこと。ただただ綺麗の一語に尽きます。実際は、広い会場に人ばかり多くて主役の花が意外に少ない花博ですが、アップにつぐアップで会場全体が花で埋まっているかのように錯覚します。この作者ならではの撮影テクニック。5月の連休は淡路花博の撮影会ですが、良いお手本をみせていただきました。
7. 富士山讃歌 華岡 汪さん 6分15秒
 富士山のまわりをぐるり一周した撮影旅行です。あまりにも好天に恵まれ自然とレンズの向く先は富士山ばかり。この作品は撮影順に並べていますが、美しい富士山もこんなに出てくるとやや食傷気味。まあ今回の場合は仕方がないでしょう。
 場所を説明するテロップが出っぱなしでした。字かすが少ないので邪魔になりませんができたら5秒ぐらいで消してください。
8. 富士山点描 有村 博さん 7分15秒
 これも富士山一周旅行の作品。川口湖などで以前に撮ったものもすこしつけ加えてあります。これといったやま場もなく大同小異。むりもありません。
9. 魍魎譚 (筆者) 関 剛 2分40秒
 富士山のテープをざっと見て“これは作品にならん”と結論。唯一大湧谷で、吹き出る硫黄のガスに異次元の世界を感じ、カラス群れと淡路ロケハンでスナップ的に撮った鬼瓦を挟み込んだものですが、いろいろ物議を呼びました。
10. ご苦勞さん 合原一夫さん 13分40秒
 ネパール・トレッキングの連作のなかのひとつ、一行の荷物を運ぶポーター達に焦点を合せた秀作です。女でも30kg、男は40~50kgを背負い、石ころの道、雪解けの冷たい川、けわしい崖を黙々と歩く彼らに、作者は感謝といたわりの目で追いつけます。我々には考えられないほど安い賃金と重労働。しかし仕事を終えたあとの底抜けの明るさは、見る者にとって救いでありそして感動的でした。
11. 京都白川花模様 森口吉正さん 6分15秒
 さくら満開の三条通りの白川橋あたりから祇園界限にかけた白川沿いを京情緒ゆたかに描いています。夜間撮影、なかでもライトアップされた夜

桜と、ゆきかう和装の女性とのあでやかな調和は日本人の美意識にみごとに溶け込んでいます。惜しいかな手持ちによる揺れがやや目立ちました。

12. ネパール紀行・ポカラへの旅 吉岡貞夫さん 10分

単に旅行記録で終らず農民とのふれあいがある中身の濃い作品です。ただ「やらせ」の部分はすこし気になります。

ナレーションのテンポが遅く、浪花節調の発声はちょっとなじめません。いっそ奥さんに吹き込みを手伝っていただくのはいかがでしょうか。この続編を期待しています。

13. 吉備と桃太郎伝説 安居利次さん 6分30秒

CGで合成された複雑な仮想シーン。作者のお得意とされる歴史ものも最近では手が込んできて、拝見するのがたいへん楽しみになってきました。桃太郎にまつわるお話は各地にあります。「日本一のきびだんご」からなる一編は安政の頃以後にこの地からはじまったと言う説もあります。

余談ですが、私たちが覚えた昔話は、祖父祖母それに親から与えられた絵本などで教わり、さまざまに思い出や郷愁そして戒めとして心の奥深くに収められているもの。しかし偏った戦後教育の四世代目になろうとするいまどきの子供に桃太郎をたずねても、はたして答えられる子がどのくらいいるのでしょうか。テレビゲームのキャラクターと混同した答えが返ってくるかもわかりません。たいせつな幼児期の情操を育てる昔話や童話が少しでも忘れ去られていくご時勢、いずれ荒れ果てた世の中になると思います。

14. 南極の生きもの 上総修一郎さん 18分

制作過程のものはすでに何度か拝見しています。これはすべて修正を終え「作家連」で発表する完成版。その説得力ある映像は18分という長さを感じません。

15. 幻想 金子博泰さん 3分15秒

お稲荷さんと巫女がセンターイメージの中にあり、笛と太鼓のリズムでバックカラーがぐるぐる入れ替わる、言ってみれば実験映像。むろん筋書きなど無くご本人だけ納得する作品です。(本当にわかっているのかな?) 2月例会に出したのを編集し直したとのことですが、どこがどうなったかは不明。たしかに実験映像もジャンルのひとつ。しかし特定志向がない一般の例会では見る人にすこしは理解される内容でありたいものです。

☆お知らせ

■住所変更のお知らせ

会員の前田さんが一時的に下記へ転居しました。9月末にはまた現在地に戻ってきます。

仮転居先 573-1182 枚方市御殿山町15-9

TEL&FAX 072-890-1480

■OMCのURLは：<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/> です。
メールアドレスをお持ちの方は広報担当(前田)までご連絡ください。

VIDEO

今月のインターネット例会作品紹介

「富士現象」森 保信作品(画像をクリックしてください、スタートします。)

No	Real Video5.0	for 28K modem	991KB 5分20秒
1			